

北遠地域にある産業遺構などを連載で取り上げた。決して「廃虚マニア」ではないが、草木が生い茂る現場へ行くと、一昔前へタイムスリップしたような緊張感がざわついた。

遺構で思い巡らす

清流

久根鉾山について、戦後から約20年間坑内作業に従事した男性に話を聞いた。病気を患っていたが、隆盛を極めた町の記憶を語る男性は誇らしげだった。郷愁が漂う遺構の一部は崩れ始め、近い将来に朽ち果ててもおかしくはなかった。だから余

計にだろつか。郷土の発展を支えた先人に思いを巡らす体験が、とても貴重に思えた。静寂に包まれた鉾山の社宅や木造の廃校舎。そこに立つと不思議と、鉾員の息遣いや子どもたちの声が聞こえてくるようだった。（水窪支局・大沼雄大）

①「清流」のようなコラムとニュースを伝える記事の違いは、どこにあるのでしょうか。

②「遺構で思いを巡らす」の文章で、筆者の意見が書かれているところに線を引きましょう。

③あなたが将来に残したい物を書きましょう。

2015年6月30日 朝刊 西部版

年 組 名前